

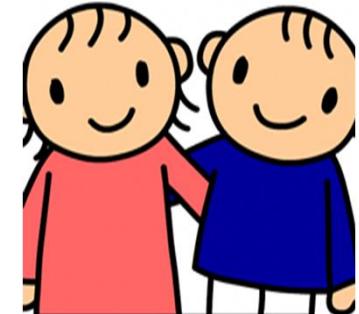
発達障がい（自閉スペクトラ症）の 理解から始まる支援の 現状と課題（私見）



児童発達支援センターわくわくキッズ 管理者
福島県発達障害地域支援マネージャー
新妻 陽子

本日の話の流れ

- 福島県発達障害地域支援マネージャーについて
- 幼児期・学齢期の現状
 - 事例を通して（当日、お話させていただきます）
 - 現状のまとめ
- 課題（私見）
- 子どもたちの安心・安全に向けて あつたらいいなあ



発達障害者支援センターの地域支援機能強化

発達障害については、支援のためのノウハウの普及が十分に行われていないため、各地域における支援体制の確立が喫緊の課題となっていることから、市町村・事業所等支援、医療機関との連携や困難ケースへの対応等について、地域の中核である発達障害者支援センターの地域支援機能の強化を図り、支援体制を整備するとともに発達障害のある方の社会参加を促す。

発達障害者支援センター

- 相談支援（来所、訪問、電話等による相談）
- 発達支援（個別支援計画の作成・実施等）
- 就労支援（発達障害児（者）への就労相談）
- その他研修、普及啓発、機関支援

（地活事業）

職員配置：4名程度



（課題）

中核機関としてセンターに求められる市町村・事業所等のバックアップや困難事例への対応等が、センターへの直接の相談の増加等により十分に発揮されていない。

都道府県等 発達障害者支援体制整備（地活事業）

- 発達障害者支援体制整備検討委員会
- 市町村・関係機関及び関係施設への研修
- アセスメントツールの導入促進
- ペアレンツメント（コーディネータ）



地域支援体制マネジメントチーム

市町村（継続）

体制整備支援（2名）

全年代を対象とした支援体制の構築
(求められる市町村の取組)

- ①アセスメントツールの導入
- ②個別支援ファイルの活用・普及



事業所等（新規）

困難ケース支援（2名）

困難事例の対応能力の向上
(求められる事業所等の取組)
対応困難ケースを含めた
支援を的確に実施



地域支援機能の強化へ

（現行）地域支援体制サポート ※サポートコーチ2名分を積算

↓
再編・拡充

発達障害者地域支援マネジャーの配置：6名程度

- ・原則として、センターの事業として実施
- ・地域の実情に応じ、その他機関等に委託可



医療機関（新規）

医療機関との連携（2名）

身近な地域で発達障害に関する
適切な医療の提供
(求められる医療機関の取組)
①専門的な診断評価
②行動障害等の入院治療



発達障害のある方の社会参加を促す

- （経済財政運営と改革の基本方針）
意欲ある全ての人々が就労などにより社会参加できる環境の整備
- （日本再興戦略-JAPAN is BACK）
人材力の強化、障害者の就労支援を始めとした社会参加の支援を推進

厚生労働省資料より抜粋

福島県内のマネージャー配置状況

- 福島県では以下の3法人が
委託を受けて活動しています

会津
特定非営利活動法人
夢あるき

中通り
特定非営利活動法人
ぴいかあぶう

浜通り
特定非営利活動法人
わくわくネットいわき





事業の目的と内容

* 目的

福島県発達障がい者支援センターの専門的な相談支援をもとに市町村や関係機関と連携を図りながら、利用できる支援機関をコーディネートし、支援体制の整備を促進することで、発達障がい児(者) 等の福祉の向上を図る

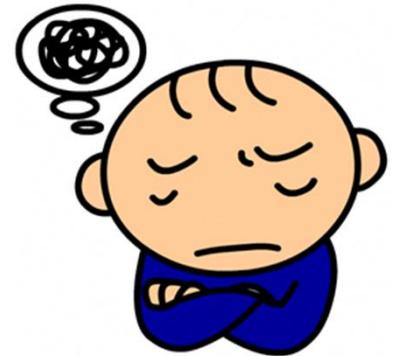
* 内容

- ・センター・医療機関等との連携
- ・事業所等への支援
- ・市町村等における発達障がい児（者）の支援体制整備の推進

* 受託件数・・・120件/年

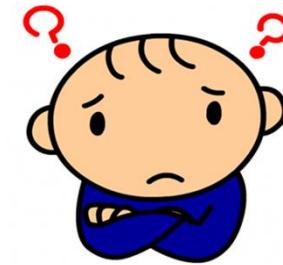
幼児期・学齢期の現状のまとめ

- 事例報告
- 支援が必要なお子さんが増えている？
- 関わっている大人は「困った」とい、本当に困っている（保育所等や学校等）
- しかし、一番困っているのはこども… 困った子ではなく困っている子である
- 子どもを中心とした周りの大人（関係者）の理解が統一されない
- 結果として、園や学校とトラブルになっている親御さんが増えていて、一定数が大人の発達障害当事者さん（未診断）の状況があり、更にトラブルを大きくしている
- 子どもたちの行動の理解をすることが出来ない大人が多い（保護者・関係者等）



課題

私 見



- ・支援が必要なお子さんが増えている（現場が追い付いていない）
- ・見立ての違いが起きていることからの支援の違いが起きている
- ・「分からなからできない」こここの理解の重要性と理解の無さ
- ・**特性理解の無さ**
- ・早期発見、早期療育というけれど・・・
- ・適正な相談窓口の少なさ・・・たくさんある相談場所のどこ？
- ・発達障害の方々にとっての安心した居場所の少なさ
- ・問題を起こした個人と家族への過重な責任転嫁
- ・地域で発達障害の支援を**学ぶ場の無さ**

子どもたちの安心・安全に向けて あつたらいいなあ



- ・居場所があつたら良いなと思います。
僕、私の話を聞いて、一緒に遊んで欲しい、一緒に勉強してほしい
が叶うような…
- ・学校さんや保育所さんと保護者さんの話しを、
まず整理してくれる人がいたら良いな（相談の交通整理）
- ・支援の具体的な方法を教えてくれる人が欲しいな

- ・あつたら、良いなの検討をしてくださる方？場所？が必要な思いは
あります。（困っている子や人のお助けが出来る仕組み作り）
- ・関係機関が、同じフロアで仕事をするとかあれば
今よりは「ほう・れん・そう」がし易いのでしょうか？

発達障がい気づきと支援

参考資料

杉山登志郎先生は、発達障害児の特徴を以下のようにまとめています

(2007 発達障害の子どもたち 講談社)

- 1、健常児との連續性のなかに存在し、加齢、発達、教育的介入により臨床像が著しく変化する
- 2、視点の異なりから診断が相違してしまう
- 3、理解不足による介入の誤りが生じやすい
- 4、結果、二次的な情緒・行動障害の問題が生まれやすい

- ・発達障がい児は、一人一人のライフスキルに応じた支援が必要です
- ・特に、早期の気づきと関係機関が連携した上で一貫した支援体制の構築が必要です。

最後になりますが

みんなちがって
みんないい



こここの多様性をみんなで大事に！！

ご清聴

ありがとうございました

